

16 石川自然環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 鹿島神社周辺一帯（石岡市）
- (2) 指 定 昭和53年9月1日（茨城県告示第1065号）

2 保全計画の概要

(1) 指定理由

本地域は、霞ヶ浦（西浦）高浜入りの南岸にはほぼ平行して、北西より南東へ半島状に突出した洪積台地の末端にある小丘（面積1.49ha）である。南北および東の三面は湖岸水田に囲まれ、南西面もまた開析谷の水田に面しわずかに北西面において台地に接続している。

小丘は、古墳で、丘の頂部はスギ、ヒノキの大木で、周囲の斜面はスタジイ、タブノキ等の常緑広葉樹が優占し、典型的な暖帯林相を呈している。

これら常緑広葉樹の中に温帯性のイロハカエデの大木が見られるのも特徴的である。

また、タブノキの多いことから、それらを食樹とするアオスジアゲハの個体数が多い。

このため、本地域は、茨城県自然環境保全条例第3条第1項第5号の「植物の自生地、野生動物の生息地」に該当する。

(2) 保全すべき自然環境の特質

ア 植 生

丘の頂部は植栽のスギ、ヒノキの大木が主であるが、それをとりまく斜面は自然性のスタジイ、タブノキ、モチノキ、アカガシ、シラカシなどの照葉樹が優占し、よく暖帯林の様相を示している。また、これら照葉樹の樹冠に混りイロハカエデの大木が散見する。

亜高木層には、ツバキが多く、また低木層には、スタジイ、タブノキとともにシュロが多いのも暖帯林の特性をよく示している。

外周部近くには、ケヤキ、ムクエノキ、エノキ、イヌシデなどの落葉広葉樹が多くみられ、また、ところどころにヒノキ、スギが植栽されている。

以上のように、本地域は、この地方の原植生と考えられる照葉樹林とともに、その自然の二次林を見ることができるとともに、その上にこの地は古墳でもあり、学術的にも貴重な地域である。

イ 野生動物

常緑広葉樹が主な構成種であり、アオスジアゲハの食樹となっているタブノキが多いため、アオスジアゲハの個体数が多い。また、暖帯林に分布の中心をおく、クロアゲハ、カラスアゲハ、ウラギンシジミ、ヒメウラナミジャノメ、ダイミョウセセリなどが見られる。

林縁のエノキにはこれを食樹とするゴマダラチョウが発生している。

霞ヶ浦の湖岸に近く、周囲が水田地帯となり、小さな流れもあるため、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ナツアカネ、マユタテアカネ、アジイトトンボ、セスジイトトンボなどの平地性のトンボが林縁に見られる。

林縁の明るい草地にはベニシジミ、ヤマトシジミなどのチョウやキク科の花を訪れるハナアブ類、小型のハチ類、コガネムシ類の姿がある。

キリギリス、セスジツユムシ、クビキリギス、マダラスズ、エンマコオロギ、ミツカドコオロギ、ツツレサセコオロギなどの鳴く虫の仲間も割合多く見られる。

鳥類もこの地域の普通種が一通り見られる。

(3) 自然環境の保全に関する基本的な事項

地域全域を普通地区とし、そこに生育する植物、野生動物を含む自然環境を維持する。このため、保全に必要な規制は条例の定めにより行う。

(4) 保全施設に関する方針

巡視歩道、標識、廃棄物処理施設、植生復元施設、病害虫防除施設、給餌施設、養殖施設等を必要に応じて設ける。

(5) 地区の指定に関する計画

本地域の区域は、次のとおりとする。

名 称	位 置	区 域	総 面 積	土地所有別 面 積	摘 要
石 川 自 然 環 境 保 全 地 区 普 通 地 区	石 岡 市 石 川	石 岡 市 石 川 の 一 部	ヘクタール 1.49	ヘクタール 国有地 0.15 民有地 1.34	スタジイ、 タブノキな どの常緑樹 にイロハカ エデの大木 とチョウ、 トンボ類

総 括 表

区 分	特 別 地 区									普 通 地 区			合 計		
	野 生 動 植 物 保 護 地 区			そ の 他 の 地 区			小 計			国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地
所 有 別	国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地	国 有 地	公 有 地	民 有 地						
所 有 別 面 積 (ヘクタール)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.15	0	1.34	0.15	0	1.34
地 区 別 面 積 (ヘクタール)	0			0			0			1.49			1.49		
地 区 別 (パーセント)	(0)			(0)			(0)			(100)			(100)		

(面積は図上測定による概算値である。)



石川自然環境保全地域区域図

$$S = \frac{1}{5000}$$



凡 例	
⊙	標板設置位置
⊕	標柱設置位置

普通地区界	
①~②	水路界
②~①	地番界